

## 社会科学習指導案

4年1組 大屋 智

## 1. 単元名 「大阪府内の特色ある地域の暮らし～AI・IoTと伝統工業～」

「社会的事象をもとに考えを深め合いながら未来をそうぞうする子ども」  
～対話を通して人・もの・ことにアプローチし、よりよい社会を考える実践～

## 2. 単元設定の理由

## (1) 単元について

本学級の児童は、社会科に対して意欲的で、「ぶどうづくりのさかんな柏原市」の単元では、大阪府や柏原市のことのみならず全国のぶどうの生産量との比較や、それに関わる取り組みなどを主体的に調べるなど、学習への関心を高めながら進めることができる児童が多い。10月には、柏原市のぶどう狩りに実際に行き、ぶどう農園の方の話を聞くなど、農家を通して学ぶことができた。しかし、実際に、農家のどのようなことに苦勞し、どのようなことが問題なのか、自分たちの身近なこととして捉え、多面的・多角的に考えることができていない課題が残った。

そこで、堺市の400年以上も前から受け継がれている技術や技法から作られる包丁づくりを通して、大阪府の産業を良さや工夫、問題点を感じられるような単元を構成し、これからの未来にどのようなにつなげていくのか、最新技術のAI・IoTの活用方法を調べながら考えられるようにする。

本時では、包丁づくりを行っている職人さんがどのようなことに困っているのかを探り、事前に学習していた大阪府内・他府県の実業種の会社や工場のAI・IoTの活用方法を調べ、対話をしながらよりよい伝統工業の継承の方法について、考えられるようにする。

## (2) 単元の目標

学習指導要領の資質・能力		そうぞう的实践力が 発揮された姿
主体的に学習に 取り組む態度	・堺市の包丁づくりについて、見通しをもって進んで調べ、自分なりに学びを広げたり深めながら、関心を高めることができる。	堺市の包丁づくりについて、学級で多くの資料を調べ、伝統工業が引き継がれるためにはどうすればいいか、対話をしながら、新たな考えを導き出し、表現したり、実生活に生かそうとしたりすることができる。
思考・判断・表現	・堺市の包丁づくりで調べたことをもとに、伝統工業を守る職人やそれに関わる人々の工夫や願いについて考え、表現することができる。 ・包丁づくりをしている職人やそれに関わる人々に対する工夫や願いを考え、これからの伝統工業の在り方について、価値判断・意思決定することができる。	引き継がれるためにはどうすればいいか、対話をしながら、新たな考えを導き出し、表現したり、実生活に生かそうとしたりすることができる。
知識・技能	・体験活動やICT、映像資料、文書資料を使って、その意味を調べることができる。 ・包丁づくりが400年前からの歴史であること、高度な技法・技術があること、それらを守り引き継いでいく取り組みがあることを理解することができる。	引き継がれるためにはどうすればいいか、対話をしながら、新たな考えを導き出し、表現したり、実生活に生かそうとしたりすることができる。

## (3) 活動構成の仮説

## ①対話を通じた学びの過程を重視することによって、協働的实践力を発揮することができる。

本単元では対話を通じた学びを重視する授業づくりを組み込むことで、協働的实践力の発揮をする。特に課題解決場面の本時では学級全体の中で、事前に学習した包丁づくりの過程やAI・IoTの活用方法、ゲストティーチャーとの対話をもとに多面的に対話をする中で協働的实践力を発揮できるようにする。

## ②未来に向けて価値判断・意思決定することでそうぞう的实践力を発揮することができる。

資料をもとに様々な立場から価値判断・意思決定する場面を学習過程の中で取り入れていく。本時では、「AI・IoTの活用」がこれから自分たちの身近な将来にも直面するツールであることとして捉えることで、そこから活用方法を対話しながら考えることでそうぞう的实践力が発揮できるようにする。

### 3. 指導計画（全9時間 本時7時間目）

問題解決の流れ	子どもの意識	教師の役割	評価			
			主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能	そうぞうの実践力
<p><b>課題把握</b> 1. 大阪府の伝統工業について、疑問や問題を出し合う。(1時間)</p> <p><b>課題追求</b> 2. 包丁での体験から、思いついた疑問から学習計画を立てよう。(1時間)</p> <p>3. 堺市の包丁づくりについて、歴史や種類、現状、作っていく過程や技法について調べる。(3時間) ・作業工程を調べる活動 ・ゲストティーチャー(包丁職人)に話を聞く活動</p> <p>4. 大阪府の会社や工場を調べ、AIやIoTの活用の仕方を調べる。(2時間) ・ペッパーを使ってAIを知る活動 ・IoTの活用事例を知る活動</p> <p><b>課題解決</b> 5. 伝統工業が守り、引き継がれていていたために、AIやIoTが活用できることを考える。(1時間・本時)</p> <p><b>新たな課題</b> 6. 伝統工業を引き継いでいくために自分たちができることを考える。(1時間)</p>	<p>大阪府の伝統工業はどんなものがある？</p> <p>農業ではぶどうがあったな。以前の学習から東大阪にも工業が盛んだったな。</p> <p>伝統工業にはどんなものがあるのかな。どんな物や組み合わせやがあるのかな</p> <p>堺市で作られた包丁を使ってみよう。</p> <p>量販店の製品と比べて切れ味が違う。作り方にどんな秘密があるのだろう</p> <p>どんな人が使っているのかな。作るのは大変なのかな。調べてみたいな。</p> <p>堺市の包丁づくりについて歴史や現在の状況、製法や技法について調べよう。</p> <p>400年以上前からある伝統的な産業なんだな。</p> <p>「鍛冶」と「研ぎ」の作業は根気のいる作業のように感じるな。</p> <p>どんなことに困って、どんなことに苦労しているのかな。一度聞いてみたいな。</p> <p>大阪府の様々な会社や工場は問題解決に向けて、どのような取り組みをしているのかな？</p> <p>どうやって手間や苦労を無くしているのかな。</p> <p>人がしないといけない作業もあるんだな。人とAI、IoTが一緒にできることができないかな。</p> <p>伝統工業×AI・IoT</p> <p>モニターを使ったり、画像認識を使ったりすることでミスが防げるな。</p> <p>AIやIoTを活用しつつも人がしないとできない作業もあるんだな。</p>	<p>○たくさんの伝統的工芸品を実際に見たり、触れたりして、興味・関心を高めることで学習への見通しを立てさせる。</p> <p>○既製品の包丁と伝統的工芸品の包丁を実際に使い、体験的活動を行うことで、価値を知ったり、興味・関心を高めさせたりする。</p> <p>○文書資料や実際の職人さんの話を聞くことで過去から今までの包丁づくりについての努力や工夫を理解できるようにする。</p> <p>○タブレットを使って、大阪府の他の会社や工場のAI・IoTについて調べるよう促す。</p> <p>○ペッパーを活用することでAIができることを考えさせる。</p> <p>○伝統工業と最新技術がどのように共存しあって、よりよい未来を気付けるのか、価値判断・意思決定する場を設定する。</p>	<p>●堺市の包丁づくりについて、見通しをもって、進んで調べたり、考えたりしている。</p> <p>●包丁づくりについて、自分なりに学びを広げたり、深めたりしている。</p>	<p>●堺市の包丁づくりで調べたことをもとに、伝統工芸を守る職人やそれに関わる人々の工夫や願いについて考え、表現することができる。</p> <p>●包丁づくりをしている職人やそれに関わる人々に対する工夫や願いを考え、これからの伝統工業の在り方について、価値判断・意思決定することができる。</p>	<p>●体験活動やICT、映像資料、文書資料を使って、その意味を調べることができる。</p> <p>●堺市の包丁について、400年前からの歴史であること、一つ一つ手作業で高度な技法・技術がある工程であること、それらを守り、引き継いでいく取り組みがあることを理解することができる。</p>	<p>●伝統工芸品に興味・関心をもち、振り返りで疑問や問題意識を持って取り組んでいる。(主)</p> <p>●包丁づくりについて教材など様々な対話の方法を活用し、多面的・多角的に社会的事象を考えることができる。(協)</p> <p>●他者と対話しながら、問題を解決している。(協)</p> <p>●堺市の包丁づくりについて、学級で多くの資料を調べ、伝統工業が引き継がれるためにはどうすればいいか、対話をしながら、新たな考えを導き出し、表現したり、実生活に生かそうとしたりすることができる。(そ)</p>